

講座シラバス

1.

講座名	講演者	対象学年	評価方法
日本文学における「子路」と『史記』	李俄憲	2.3.4年生	レポート

講座内容：

日本文学特に近世と近代日本文学における「子路」のイメージは大きく注目を受けている。「子路」は孔子の一番目の弟子として、松尾芭蕉、井上靖など多くの文人の作品に取り入れられている。これらの作品では中国歴史書の描写を受け継ぎ、中国のイメージに近い人物像を描いている。しかし、中島敦の小説『弟子』のなかでは違う角度から「子路」の人物像を描き挙げている。本講座では日本文学における「子路」と中国『史記』における「子路」を取り上げ、比較する手法を通じて、日本文学に影響を及ぼす社会的・歴史的要素を説明し、学生たちの日本文学に対する理解を深めることを目的とする。

2.

講座名	講演者	対象学年	評価方法
村上春樹のなかの中国	藤井省三	2.3.4年生	レポート

講座内容：

中国でも人気の日本の作家村上春樹の作品について分析する。(1) 村上春樹作品について紹介し、日本及び中国における販売・研究を概観する。(2) 村上春樹の作品を取り上げ、文献研究の手法を通じて、村上春樹と中国との影響関係を分析する。

3.

講座名	講演者	対象学年	評価方法
	鄭俊坤	2.3.4年生	レポート

講座内容：

4.

講座名	講演者	対象学年	評価方法
中国における日本語教育の現状	修剛	2.3.4年生	レポート

講座内容：

中国における外国語特に日本語の発展、歴史を概観し、日本語教育の現状および未来について言及する。全中国の高等学校における日本語専攻の数、日本語課程の建設、マルチメディアの利用という視点から、中国の日本語教育について紹介する。日本企業の動き、中国のマーケット性を分析し、日本語教育のこれからの方向について論及する。

5.

講座名	講演者	対象学年	評価方法
イギリスにある同一絵師「奈良絵本」三本について	秋谷治	2.3.4年生	レポート

講座内容：

十七世紀半ばもしくは後半の絵巻物を中心とする同一絵師による作品7点及びイギリス所蔵の同じ絵師の作品を論及する。これらの作品を比較検討することにより、同一絵師の絵の変遷を考察し、物語書写に見られる人的ネットワークを説明する。

6.

講座名	講演者	対象学年	評価方法
近代中国の商業啓蒙運動	馬敏	2.3.4年生	レポート

講座内容：

啓蒙運動は17、18世紀ヨーロッパの思想解放運動であり、民主、自由、平等、人権、理性を主な思想とし、資本主義の革命において文化宣伝の役割を果たしている。近代中国では西洋のような啓蒙運動はないが、明清啓蒙思想と近代西洋思想の影響のもと、オリジナルな発展を成し遂げている。啓蒙学者や思想家が続出し、科学、民主を宣伝する以外に、資本主義と緊密な関係がある工業化、重商主義思想が流行っていた。本講座では近代中国の商業啓蒙プロセスをたどりながら、商業啓蒙思想の内容と影響について概略的に検討する。

7.

講座名	講演者	対象学年	評価方法
中国法の特徴および影響	小口彦太	2.3.4年生	レポート

講座内容：

近年、日中間の経済交流や国際取引の拡大に伴い、何よりも双方の政治、経済、社会及び文化に対する深い理解能力、及び両国の法制度と法実務を熟知し、多様な形で現れる国際摩擦に対応できる実務的応用能力や法的紛争解決能力を合わせ持った専門的な法務人材が求められている。本講座では、改革・開放の転換期にある中国の実像を法学的観点から解明し、社会主義法系に属する現代中国法の特徴及びその背景にある諸要因に対する理解を深めるとともに、具体的事例を取り上げながら、中国の実体法に定められる法制度の解釈とその運用の実態における諸問題についても、実践的視点から考察を行おうと考えている。

8.

講座名	講演者	対象学年	評価方法
周氏『日本概略』考	徐冰	2.3.4年生	レポート

講座内容：

19世紀から20世紀半ばまで、日本は中国で多くの出版物を発行した。北京で発行し、大きな影響を及ぼしたのが中国語版新聞『順天時報』であった。この新聞の三代目社長亀井陸良は20世紀初期に北京で活躍していた報道界の核心的な人物といっても過言ではない。本講座では第一世界大戦から終戦までにおける亀井氏の社会活動を考察し、強硬派から平和活動を宣伝するようになった転向の原因を分析する。

講座名	講演者	対象学年	評価方法
清朝の歴史書から見る太平天国運動について	章開沅	2.3.4年生	レポート

講座内容：

(1) 清朝の統治期間における中国社会全体の歴史を概観し、中国社会発展、外国文化の進入など社会背景を言及する。(2) 社会背景のもとで発展した太平天国運動の原因を分析し、始めから終わるまでのプロセスを考察することにより、太平天国運動の影響を正確に分析することを目的とする。

10.

講座名	講演者	対象学年	評価方法
日本語教育文法の功と罪	徐一平	2.3.4年生	レポート

講座内容：

本講座では日本学校教育文法の発展過程と橋本文法の関係について論及する。また、長い間の文法教育に使用された学校教育文法について説明し、その影響を積極的と消極的の二つの視点から分析する。最後に文法教育の改革は一つの大きなプロジェクトであり、このプロジェクトを完成させてからこそ、文法教育改革を本来の目的を達成するということを強調する。

11.

講座名	講演者	対象学年	評価方法
日本航空民営化失敗の原因分析	譚晶华	2.3.4年生	レポート

講座内容：

本講座では日本国家航空会社 JAL が倒産の危機に直面した原因を分析し探求する。JAL は表向きでは民営化を実施しているが、実際では政府の官僚が主な位置でコントロールしていたといっても過言ではない。違う派別の経営者の間では長い間、不和の噂が流れていて、株の投資という面では長期間赤字を出していた。労働紛争の解決案が適当でなかったのがきっかけで、JAL は倒産の危機に面していたが、これらの原因を分析することにより、中国の国家企業の改革にヒントを与えるのではないかと考えられる。

12.

講座名	講演者	対象学年	評価方法
科学技術と経済発展	樋口清秀	2.3.4年生	レポート

講座内容：

21 世紀において、ICT（情報通信技術）イノベーションと経済社会のグローバル化がますます進化していく。そこでは情報過多がさらに進む一方、さまざまな形での新たなコミュニケーションネットワークが創出されていく。そうした変化の中で個々人、企業、市場、経済は自己充足化を図るためにどのような戦略行動を構築すべきであろうか。あるいは、それぞれが戦略的行動として相互にどのようなコミュニケーション手法あるいはデザインを活用するならば、安心かつ信頼しうる社会を形成していくことができるのか。本研究講座では、ICT イノベーションとグローバル化に焦点をあて、安心勝つ信頼しうる経済社会の構築のためにどのようなコミュニケーション手段あるいはデザインが有効となりうるのか、ミクロ経済学や行動経済学あるいはゲーム理論及びネットワーク理論などに依拠しつつ、これらの問題解明に挑戦していく。

13.

講座名	講演者	対象学年	評価方法
言語交流と生活・文化形式変化の関係	宿久高	2.3.4年生	レポート

講座内容：

言語交流は生活・文化形式の変化と緊密な関係を持っている。長い歴史発展の中、言語交流はいろいろな面から社会の発展に影響をしてきた。中国古代言語、文化は日本の文化、思想、生活など多方面から影響を及ぼした。このような影響の多くは言語を媒介として実現できている。言語と文化の交流を縦に見ると、一つの国・民族発展の歴史がうかがわれ、横に見ると違う国・民族の交流の歴史である。社会の発展、民族繁栄のため、外来言語と文化に対して積極的な態度を取らなければならない。

14.

講座名	講演者	対象学年	評価方法
韓国大学生時間配分に関する研究	呉万錫	2.3.4年生	レポート

講座内容：

近年、韓国の経済は急速な成長を見せ、アジアだけでなく、欧米でも人気商品を続出させ、注目をうけている。韓国商品、文化輸出が成功を見せたのは、若手人材の活躍が大きな原因の一つになると思う。このような人材を育成するのが学校教育であり、高等教育における国の政策および各大学のオリジナルな対策を調査する必要がある。本講座では韓国の主な大学の時間配分、授業コースについて比較検討し、その構成の妥当性および役割について考察することを目的とする。

15.

講座名	講演者	対象学年	評価方法
	佐藤洋治	2.3.4年生	レポート

講座内容：

講義日程および内容は講師の都合等により変更になることがあります。